

東久延 議員



- 一問一答方式
- ① 漁業の振興
 - ② 市道須沢・込ノ奥線改良
 - ③ 市立図書館

漁業の振興について

問 長浜町第3次開発計画の一環として、長浜港内の漁船の移転事業が進み、当初予算でも必要な施設の整備費が計上されている。漁船の移転の進捗状況や、今後の計画はどうなっているのか。

答 漁船の移転については、県、市、長浜町漁協の3者で協議を進めており、漁協の移転や、それに伴う漁船の移転について、概ね同意をいただいています。そのため、漁船を移転するために必要な漁業関連施設の整備に着手する計画で、令和2年度は漁業活動の中心となる

港、水産センター、令和3年度は荷さばき所、令和4年度には船揚げ場などを整備する予定としており、漁船の移転は、施設の整備完了後となる令和5年度を目標に考えています。

移転先の長浜港小型船だまり



問 長浜の漁港や漁業振興については、様々な課題の解決や今後に向けた振興策が必要であるが、市としてどのように取り組まれるのか。

答 漁港については適正な維持管理に努めています。そのため、施設が進んでいます。そのため、施設本来の機能を維持するために、効果的かつ効率的な維持管理が必要であ

るため、平成27年度より各施設の寿命化計画を策定しています。

令和2年度は3つの漁港の長寿命化計画策定及び、2つの漁港の施設補修工事の実施に必要な詳細設計を予定しており、これからの10年間をめぐりに順次各施設の補修工事を行う計画です。

漁業の振興については、昨年、大洲市と長浜町漁協による「浜の活力再生プラン」を作成していますが、より具体的な行動計画を長浜町漁協が検討しています。

本市としては、各漁港の適正な維持管理と、漁業関連施設の整備を計画どおり行うことが、漁業活動の効率化や魚価の向上、組合運営の活性化につながり、漁業従事者の所得向上や後継者の確保にも大きく寄与すると考えています。

市道須沢・込ノ奥線改良について

問 市道須沢・込ノ奥線は、起点側の須沢集落付近は現在も未改良のまま、この路線を利用している方に大変不便となっている。

平成30年に国道378号が全面通行止めになったときには、この市道を迂回路として利用された。

国道378号は、これまで何度も崩落があり、将来予測される大規模地震のときには、通行できなくなり、また原発事故に際しても、避難や生活に大きな支障を来すことが十分考えられる。地元住民はもとより、長浜地域の多くの方がこの市道の改良を強く望んでいるが、どのように考えているのか。

答 この市道は、須沢地区と穂積地区を結ぶ一級市道で、地域間を結ぶ重要な路線です。平成14年度から平成28年度にかけて道路改良事業を実施し、現在では穂積地区から約1.8kmまでが改良済みです。

ご指摘の未改良区間については、起点部の須沢地区の集落区間は家屋が密集し、残りは急峻な地形のため道路改良が難しく、未改良のままとなっています。

しかし、災害時には迂回路として利用され、須沢地区から道路改良事業の要望書が用地協力の誓約書とともに提出されました。これを受け、市としても全面改良は困難ですが、部分改良を実施する方向で地域の皆様と協議を行ったところであり、できるだけ早期の工事実施に向け進めていきたいと考えています。